

子被進御若宮御方岡殿女中衆中山大納言源中納言輔房朝臣公遠朝臣重通朝臣親綱等也此子三條中納言被參御酒於御三間有之出御無之音曲有之及黃昏各退出了

〔御湯殿上の日記〕慶長三年四月八日御貝覆あり女二の宮の御かた女三の宮内親王子の御かた准后大御ちの人御まけかたにてやがて御せうぶ今度のことなり十一日けふ御貝覆の御せ

うぶあり女二の宮の御かた女三の宮の御かた御ふるまいおはしまし候内々の男達十人ばかりまかうにて御ひしゝにてめでたしだいのもの色々まいる九年うるう八月四日御かいおほいの御まやうぶの御ふるまいあり女院の御所ならします八でう殿大まやう寺殿もなる御まけしゆうにて女御の御かたよりだいの物まつたけ一折御たるまいる新しい殿よりくり一折かき一折参るいよ殿より御たる参るあせち殿より折御たる参るおとこたちまかうあり御参る

〔四十二のものあらそひ〕貝おほひと　すぐろくと

ひしゝとつどひておほふ貝よりもたふたりゐてめをやるんせむ

〔四十二のものあらそひ補遺〕かひおほひと　手まりと

くろかしのみだれてさわぐまりよりも貝におほへる袖はなつかし

〔立圃句集冬〕貝おほひのあそびに馴ざる間は取にくしよく目なれたる貝は出す手の下より合せてとる也

逸物の鷹や目なれの貝おほひ

〔山槐記〕治承二年六月十九日壬午今日於院白河後有火打角合云々一方公卿殿上人僧并四十餘人

一方北面下臈等也公卿方作銀海浮銀船都合銀三其内納角北面下臈厨子一脚上置銀手桶二合納之此事近日天下經營諸人愁歎或下知莊園切生牛角數十適雖持來稱下品棄之罪業之因縁之